

V. 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」の確立

1. 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」確立の基本的考え方

J Aは、組合員のニーズを把握し、事業利用とともに、地域農業と協同組合の理解を深める活動を展開する上で、組合員参画の「場」づくりとアクティブ・メンバーシップ（注）を確立し、意思反映・運営参画を進め、J A組織の基盤を強化します。

（注）アクティブ・メンバーシップとは、組合員が積極的に組合の事業や活動に参加することです。J Aにおいては、組合員が地域農業と協同組合の理念を理解し、「わがJ A」意識を持ち、積極的に事業利用と協同活動に参加することです。

2. 正・准組合員のメンバーシップの強化

J Aは、正・准全ての組合員を対象とし、各組合員の参画程度に応じて、段階的にメンバーシップ強化に取り組みます。その上で、支所・支店等を核とした、組合員の参画の「場」をつくり、意思反映・運営参画を進めます。

また、次代の地域農業及び農業協同組合運動のリーダーを育成するため、全てのJ Aで青壮年組織の設置・活動の活性化を進めるとともに、若手農業者の青壮年組織への加入促進に取り組みます。

さらに、各J Aで女性組織の活動の活性化を進めるとともに、J A女性大学によるJ Aファンづくり等を通じて、フレッシュミズ層の確保・育成及び組合員加入促進に取り組みます。

3. 准組合員の「農」に基づくメンバーシップの強化

本県J Aの総組合員に占める准組合員の比率は、31.7%（平成26年度末）と全国と比較して低い状況にあります。

J Aグループは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、准組合員を「農業や地域経済の発展を共に支えるパートナー」と位置付け、農業者の所得増大等に向けた自己改革と併せて、准組合員の「地域農業振興の応援団」として加入促進に向けた取り組みを拡充します。

このため、J A・連合会・中央会は、准組合員がJ Aの目的に賛同し、J A直売所での地産地消の拡大など、J A事業と組織活動への積極的な利用・参加を通じて「農業振興の応援団」の輪を拡大します。

4. 農業協同組合運動者としてのJ A役職員づくり

J Aは、組合員のメンバーシップ強化にあたり、役職員の役割発揮が不可欠であることを踏まえ、農業協同組合運動の推進者である役職員の意識改革と行動改革に、役員が先頭に立って取り組みます。

また、J Aは、自己改革の取り組み事項を中期計画に反映することと併せて、必要に応じて「人材育成基本方針」の見直しを進め、J Aの経営理念・経営戦略を実現する「自ら考え行動する」人材育成・職場づくりに取り組みます。